

Sat. Jun 11, 2022

第1会場

招聘講演

[IL1] 患者と家族の心をケアする共感的コミュニ ケーションの基礎

座長:山勢 善江(湘南医療大学ノ大学院)

演者:古宮 昇(カウンセリング・ルーム輝 (かがやき))

11:10 AM - 12:10 PM 第1会場 (国際会議場 メインホール)

[IL1-01] 患者と家族の心をケアする共感的コミュニ ケーションの基礎

○古宮 昇¹ (1. カウンセリング・ルーム輝 (かがやき)
)

11:10 AM - 12:10 PM

第3会場

招聘講演

[IL2] 米国の ECMO療法最前線– ECMOスペシャリス トからのメッセージー

座長:道又 元裕(Critical Care Research Institute (CCRI))

演者:ピーターソン 由紀(Michigan Medicine, University of
Michigan, ECMO Program)

2:50 PM - 3:50 PM 第3会場 (国際会議場 国際会議室)

[IL2-01] 米国の ECMO療法最前線 – ECMOスペシャリス トからのメッセージー

○ピーターソン 由紀¹ (1. Michigan Medicine,
University of Michigan, ECMO Program)

2:50 PM - 3:50 PM

招聘講演

[IL1] 患者と家族の心をケアする共感的コミュニケーションの基礎

座長:山勢 善江(湘南医療大学/大学院)

演者:古宮 昇(カウンセリング・ルーム輝(かがやき))

Sat. Jun 11, 2022 11:10 AM - 12:10 PM 第1会場 (国際会議場 メインホール)

[IL1-01] 患者と家族の心をケアする共感的コミュニケーションの基礎

○古宮 昇¹ (1. カウンセリング・ルーム輝(かがやき))

11:10 AM - 12:10 PM

11:10 AM - 12:10 PM (Sat. Jun 11, 2022 11:10 AM - 12:10 PM 第1会場)

[IL1-01] 患者と家族の心をケアする共感的コミュニケーションの基礎○古宮 昇¹ (1. カウンセリング・ルーム輝 (かがやき))

Keywords: 心のケア、共感、コミュニケーション

医療者の皆さんはとくに、患者さんの役に立ちたい、という気持ちの強い人が多いのではないかと思います。それだけに、役に立てないのは辛いことです。苦しむ患者さんや、不安にさいなまれているご家族を目の前にして、治すことができないし、不安や苦しみを取り除いてラクにしてあげることができないとき、その無力感は辛いものでしょう。役に立てないどころか、患者さんから「あなたに何が分かるんだ！」とか「そんな治療はするものか！」「役立たず！」と怒られたりするのはしられたような経験をお持ちの方もおられるでしょう。目の前で、不安、悲しみ、絶望感などに苦しむ患者さんやご家族の苦しみを治せないとき、私たちに何ができるでしょう。私たちが本当に辛く苦しいとき、もっとも救いになるのは、ただ、その辛さ、苦しさを誰かが分かってくれること、そういうときがあります。例えば、あなたが大失恋をしたとします。悲しくて、寂しくて、不安で、怒りもいっぱい、苦しくてたまらない。そのあまりに辛すぎる気持ちを、思い切って人に話します。そのとき相手にできる最大のサポートは、前向きなアドバイスでも気休めでもなく、あなたの苦しみ、辛さを分かってくれて、一緒にいてくれることかもしれません。仮にあなたが「辛くて悲しくて、布団に入っても、なぜフラれたんだろう、何が悪かったんだろう、自分はどうなるんだろう、とぐるぐる考えてしまう・・・悲しくて悲しくて・・・」と打ち明けたとします。もしそのとき相手から、「そんなふうに思う必要はないよ」とか「もっといい人が見つかるから大丈夫だよ」と言われたり、「なぜうまく行かなかったか、よく反省して、原因を考えて、次からはうまく行くようガンバロー！」と前向きに言われたりしたら、どう感じるでしょう。さらには「抗うつ薬を出すよ」だったら(！？)

そんな応答をされると、いっそう辛くなったり、「やっぱり分かってもらえないんだ」と孤立感を強めたりするかもしれません。私たちは、本音を語ったときにそれを分かてもらえないと傷つきます。医療者の責任の1つに、指導すること、知識を与えることがあり、それはとても大切なことです。しかし医療者のみなさんが患者さんの心の苦しみに対応するとき、それではうまく行かないこともあるでしょう。ときに、患者さんや家族の苦しみに寄り添い、一緒にいること、それが最善のケアになることがあるかもしれません。心理師の私が思う心のケアとは、「心の異常な人を治して正常にするもの」ではなく、誰にもある人間らしい弱さをケアし、心の成長を支えるものです。そんなケアをするときにおこなうことの一つとして、共感的に話を聴く傾聴があります。傾聴とは、「相手を救おうとせず、気持ちをラクにしようとせず、相手を変えようともせず、相手の気持ちをなるべく相手の身になって理解し、理解したことを言葉で返す」ことです。傾聴をさまたげる最大の要因は、聴き手が、無力感、絶望感、不安、悲しみなど辛い感情に耐えられず、感情から逃げようとすることです。傾聴するには、自分の無力さを引き受け、無力感に耐えることが必要になります。それは決して楽でも簡単なことでもありません。次のような応答は傾聴になっていません。「うん、うん、そうですか。でも、そんなことはないですよ。」傾聴は一生かけても極められないどこまでも奥の深い営みですが、この講演でそのやり方の基礎をお伝えします。この講演ではさらに、「心のケアとは、異常を治すことではなく成長をサポートすること」について理解を深めていただけるお話と、医療者の燃えつきを防ぐためのご提案もしたいと思います。

招聘講演

[IL2] 米国の ECMO療法最前線 – ECMOスペシャリストからのメッセージ –

座長:道又 元裕(Critical Care Research Institute (CCRI))

演者:ピーターソン 由紀(Michigan Medicine, University of Michigan, ECMO Program)

Sat. Jun 11, 2022 2:50 PM - 3:50 PM 第3会場 (国際会議場 国際会議室)

[IL2-01] 米国の ECMO療法最前線 – ECMOスペシャリストからのメッセージ –

○ピーターソン 由紀¹ (1. Michigan Medicine, University of Michigan, ECMO Program)

2:50 PM - 3:50 PM

2:50 PM - 3:50 PM (Sat. Jun 11, 2022 2:50 PM - 3:50 PM 第3会場)

[IL2-01] 米国の ECMO療法最前線 – ECMOスペシャリストからの メッセージ

○ピーターソン 由紀¹ (1. Michigan Medicine, University of Michigan, ECMO Program)

Keywords: ECMO、ECMOスペシャリスト

2009年に、インフルエンザ H1N1の流行により、成人における ECMOの使用が、脚光を浴びました。テクノロジーの発展により ECMOを簡便に使用できるようになり、また ECMO使用患者の生存率も上がり、ECMOは、稀な治療ではなくなりました。そしてまた、今回の COVID-19によるパンデミックでは、ECMOという言葉が、テレビなどのメディアでも紹介されるなど、一般的にも知られるようになったと思います。

ECMOというものが身近になったとはいえ、かなりの侵襲的な治療法であることには変わりありません。今回、アメリカにおける、ECMOスペシャリストの仕事内容や、患者管理の実際、ケアのポイントなどをアメリカのコロナ事情なども交えてお伝えしたいと思います。

しかしながら、この2年間、パンデミックということで、色々規制を強いられたり、クリティカルケア看護師として、患者の家族がベッドサイドにいない寂しい最後を看取るなど、色々な辛い思いがあったかと思います。また、さまざまなことが、世界各地で起きており、世界中で、かなりの医療者が、燃え尽き症候群になっていることは、明らかです。ですので、ここは、あまりシビアにならず、リラックスモードで、アメリカの ECMO、看護事情をご紹介しますと思います。